

鶴岡市の空き家棟数3582棟

鶴岡市では「第2次空き家等対策計画」（令和5～11年度の策定を進めています）

令和2年度に調査した市全地域の空き家棟数は3582棟となり、5年前の大規模調査の平成27年度から776棟増加しました。

増加数は平成23年～27年度の533棟より多くなっています。

地域別では、鶴岡地域の空き家棟数が2420棟となり、67・6%（市街地39・3%、郊外地28・3%）の割合で、市全体の約7割を占めています。

市全地域の空き家の増加率は27・7%で、地域別では、朝日97・6%、藤島51・4%、羽黒46・6%と高くなっています。

空き家率が上昇
空き家率（家屋棟数に対する空き家棟数の割合）は、市全地域で6・4%で、平成27年度から1・3%の上昇となりました。

空き家率が上昇

地域別では、温海地域が12・0%と一番高く、羽黒地域が3・9%と一番低くなっています。

5年間の空き家率の増減を見ると、朝日地域が4・9ポイント、温海地域が3・1ポイントと上昇幅が大きくなっています。

しかし、鶴岡地域の郊外地と藤島、櫛引地域は、分母となる家屋棟数が平成27年度から増加しているため、実際には上昇傾向にあるとしています。

空き家の老朽危険度の判定では、倒壊の恐れがあるなど解体へ誘導すべき不良空き家のDクラスが184棟あり、大規模な修繕が必要で再利用困難なCクラスが1961棟（54・7%）と半数以上を占めています。

状態が良く利用可能なAランクが150棟あります。

平成29年度の追跡調査から令和2年度の大規模調査では、鶴岡地域の市街地で67件の空き家が減少しています。

相続登記が義務化

令和6年4月1日から、相続登記が義務化されます。

相続人は取得を知ってから3年以内に相続登記が必要になり、所有者不明の空き家問題は進展が期待されます。

村の四季

26

鈴木重雄（八色木）

水稲防除

昭和30年代の水稲管理は、雑草と病害虫との闘いであった。今のように除草剤も普及していなかったし、根から吸わせる防除薬もなかった。セレン石灰はいもち病の特効薬であった。ニカメイ中やウンカ、アオ虫などの害虫にBHC粉剤を使っていた。今は人体に有害なため使用禁止になっている。

夕方、太陽の沈む頃や、上昇気流の出る前の早朝に、夜露に濡れながら散粉機を抱いて田んぼに入った。やがて動力散粉機に変わり、長管多頭口による液剤防除に移行した。動力防除は各集落の共同作業である。



昭和34、35年頃、庄内地方にウンカ、アオ虫が大発生し、アオ虫が稲を食う音が聞こえてくるのを覚えている。農協が夜を徹して防除剤を緊急輸送したのを思い出す。

食糧増産が急務で、山形県60万ト米作り運動に呼応した時代である。そして昭和40年代中

徴兵検査

終戦の前年（昭和19年）、徴兵検査の年齢を20歳から19歳に引下げ、18歳の男子は強制志願であった。志願に強制とは理解しがたいが、私はこの志願で海軍航空整備兵として舞鶴航空隊入隊（20年9月10日）の令状が来たので心の準備はしていた。

もともと同級生や上級生の次3男は、少年志願兵として兵役に就いていたし、学徒動員などで中等教育を受けている学生も、村の中にはいなくなっていたので、むしろ戦地に行くのを望んでいたような気がする。長男は後回しのようなであった。この年（20年）8月15日が終戦であったので、その機を逸した。

学童疎開で藤島町大洞寺にも集団で寄宿していたし、親戚縁者を頼って個人の家にも間借りして、学校に通っている子どもたちがいた。この頃は藤島小学校は部落分散授業もしていた。

20年4月頃からこの地区にも空襲警報が発令され、伝統に黒い布で作った枕カバーのような物で、光が漏れないようにして寝た。

金属回収で神社の釣鐘や火鉢、アルミの弁当箱まで供出された。

令和4年度市道除雪計画

令和4年度

市道等の除雪計画書



鶴岡市

鶴岡市は令和4年度市道等の除雪計画書を12月6日公表しました。

除雪計画路線は、市道延長1528・1kmのうち、道路除雪3164路線1140・9km、歩道除雪148路線105・4kmです。

昨年度対比では、道路10路線2・5km増、歩道では2路線0・3km増です。

道路用除雪機械は275台（うち市有車132台）で9台増、歩道用除雪機械26台（うち市有車21台）です。

防雪柵の設置は、幹線道路などの98路線、延長23・33kmです。

道路消雪施設は幹線道路38路線、延長15・47kmです。

凍結防止剤の散布は、幹線道路の登り坂や橋及び主要交差点等297箇所（+107）で、延長37・98km（+12・69）に散布します。

公共施設は小・中学校等297箇所（1減）の駐車場等の除雪作業を実施します。

除雪機械の出動基準は、路面に10cm以上の降雪がある場合、又は午前7時まで10cm以上の降雪が予想される場合に出勤します。

降雪がない場合でも、道路の安全を確保するため、道路の状況に応

ひと

村山俊太郎・ひで夫妻

青山 崇

父帰る

保釈された家に帰る途中、「心ばかりのお祝いは、もうへむぎめしVであつた。」と書いている。

この文に出会つた時、これまでいろんな苦労・迫害にもめげず4人の子を、教師をしながら育て、獄中にいる夫・俊太郎を励ましながらの2年間のひでを思うと、ぐつと涙が込み上げてきた。

誇るべき山形の女性である。私も含めた仲間たちが、遅きに失したが、お二人の顕彰碑が、墓の一角に建つことは大きな慶びである。鈴木輝男君が生きていてくれたらと思う。

長男宏の書いた『父帰る』がある。22歳の時に思い出の中から書いたものである。恐縮だが所々略させて載く。

「父が僕の前にあらわ

じて剥ぎ取り・道路拡幅等を行います。

豪雪対策本部の設置基準は、本所の観測地点（鶴岡公園の観測地点）が70cmを超え、道路事情が悪化し引き続き降雪が多量に見込まれる場合が基準です。

朝日庁舎では、大網の観測地点の積雪が150cmを超え、温海川観測地点の積雪が150cmを超え、同様の場合を基準とします。

来て来たのは、小学校に入った寒い冬休みの朝でした。

いつごろ、どうして、ぼくたちの家からどこにいったのかさえ、少しも知らないぼくと弟たちでしたから、寒い大雪の降った東根に帰る父を、家の前を通り過ぎる人達の雪をふむ、きしむ音をかぞえては待っていました。

毎晩一つのアンカンを囲んで聞かされる母からの父のことは、偉い学校の先生になるため、東京に勉強にいったVということだけでしたから、偉い学校の先生を父にもつぼくたちの心は、はずんでいました。

ところがある日、家の前に、積んだ石炭が崩れた大型貨物自動車が出ると父を知っていたという運転手さんか

らこんなことばをかけられました。「おまえのとうちゃん、どごさえだや」。

ぼくは大きな声で「おまえのとうちゃんかー東京さべんきようすさいった」。運転手はニヤニヤして「おまえのとうちゃんかーあかいこしまぎして、あみがさかぶせてべんきようだべな」。

夕はんのとき、母に語つたら、母ははげしいことばでさえぎりました。小さい声で聞いてみましたが、母は泣いていました。母にす



大軍拡反対

「再軍備反対」を叫んで市の中心部をデモしていたのは、俺がそれらに参加するようになった昭和40年代前半だったろうか。当時は、ソ連が今にも北海道に上陸するかの如き煽りであつたと記憶。

▲以来現在まで、防衛の為に称する無駄な武器は備えられてきた。それは、GDPの1%という自らが決めた限界内で空母まで作り始めたんだぜ。空母は、戦場の近くに飛行場を持つていくものでしょ。それでも専守防衛？そんなお金を倍にするとは、何故かバイデンに言ったんだ。

▲首相が軍事大国にはならない・なんて言い始めましたゾ。そんな事言つてもサ、自分で指示した防衛費と称する金額は、数年後には世界で3番目になるっ

がつてみんな泣きました。

こんなじめじめした日からのくらくらいたつたでしよう。いよいよ父の手で頭をさわつてもらえる喜びと、何か買ってもらえるという小さな欲望の喜びは、とてもすばらしいものでした。

「ぼくには本だべね」「おれに自動車かグライダーだね（後略）」ひろげられている大きなトランクの中から、三・四枚の衣類がとびだしているだけです。」と閉じている。

て言うんだから、何いつてんのヨ・でショ。同じように、国内でミサイルを増産しろとも、号令をかけたようだ。

▲一方同じ新聞に、日英伊で新戦闘機を共同開発すると9日発表したと出ている。これに、三菱重工と三菱電気、IHIは9日、共同開発で連携すると発表も併せて、防衛装備移転3原則の運用指針の見直しを3文書に書き込んで、戦闘機を売れるようにするんだとヤ。▲尚あるんだヨ。『有利な情報発信、特定国への敵対心醸成に防衛省が「世論誘導」構想』の見出し。AI活用、SNS拡散だつてヨ。毎日、国営放送如き放送を見ているのに。軍拡反対の人を、人工知能を使って戦意高揚に向かわせるんだとサ。▲宗教の救済が問題になっている国会だ。これを国がやつたら救済はないぜ。（石川）